

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200090		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター龍神 【ユニット名:ふらわあ】		
所在地	和歌山県田辺市龍神村柳瀬1143-1		
自己評価作成日	平成23年5月20日	評価結果市町村受理日	平成23年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3092200090&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成23年6月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様がいつも笑顔で、安心して生活をしていただけるようにお手伝いができること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれ、落ち着いた雰囲気のある2階建てのグループホームである。ウッドデッキや建物を取り囲む庭に出れば、菜園で季節の野菜が作られおり、周囲の山々などの自然も望め、季節感が感じられる。3ヶ月に1度開催される家族会の行事には、毎回多くの家族の参加がある。法人の方針で入居者を職員の運転する車に乗せることは禁止されているが、家族との信頼関係が構築されていて家族の協力による外出支援が行われている。開所1年目で、介護の経験が浅い職員も多いが、入居者に楽しく過ごしてもらえるようなグループホームを作っていこうと、意欲を持って取り組んでいる。行政・地域・近隣の関係施設とも連携を密にとり、協力を得ながらサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔を決やさず、安心安全なサービスの提供を実践しています。	「笑顔を絶やさず、安心安全なサービスの提供」という理念を職員間で共有して実践に努めている。地域密着型サービスの意義についての認識を深めていくことを今後の課題と考えている。	地域密着型サービスの意義を事業所で検討して、自宅での日常的な暮らしの延長のようなサービスにつながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフ10名中9名が地域に在住しています。学校や老人会・社会福祉協議会との交流は出来ています。	自治会には加入していないが、事業所は近隣の社会福祉協議会の事業所・小学校・施設との交流を図り、入居者が地域と触れ合える機会を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会等に参加してくれた方の中で、ご希望があれば説明を行なっています。個人的に相談に来られる方もいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティア・移動販売の利用等 沢山のアドバイスを頂き、サービスの向上に努めています。	行政・地域住民も参加して2ヶ月に1回開催している。現在は入居者のサービスの現状報告が中心であるが、サービスの向上に向けたテーマを決めて開催したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者も運営推進会議に参加していただいています。	龍神行政局住民福祉課長が運営推進会議のメンバーとなっており、田辺市のやすらぎ対策課に足を運び相談することも多く、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心にスタッフ一同で取り組んでいます。	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、安全性を考慮して、家族の了解を得てユニットの入り口には施錠を行っている。	入居者の自由に外へ出たい気持ちに配慮し、入居者の行動パターンを把握し、安全のための見守りを強化するなど、かかわり方を工夫して、鍵をかけたケアに取り組むことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待について、現場で気がついたことは常にスタッフより質問が来ます。そのたびに全員で共有し、虐待を防止する取り組みを行なっています。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに成年後見制度を利用しているお客様が居ます。担当の方が毎月面会に来られるので、スタッフも理解しています。他には必要とされる方は発生していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を基に十分説明をさせていただいていますが、随時質問があれば受け付けますとも伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3ヶ月に1回開催し、ご意見・ご希望を頂く機会を作っています。面会に来られたときも、出来るだけお話を伺うようにしています。献立・おやつについてのご要望があり実際に反映出来ています。	3ヶ月に1回家族会が開催され、家族の意見を聞く機会が設けられている。家族会には毎回ほとんどの家族が出席しており、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフには意見・提案を話しやすいような態度で接するように努力しています。定期的にも業務ミーティングにて話し合い改善できる工夫を行なっています。	スタッフが管理者に相談・意見を言いやすい関係ができています。法人の方針により改善し難しい内容もみられるが、管理者は定期的に法人の会議に出席して意見、提案を伝え、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度等、各自がやりがいをもって勤務できる工夫があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行なっています。外部研修にも積極的に参加できるように情報を伝えています。力量に応じて、随時指導できる体制としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設、関係機関等との交流・勉強会には参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ全員で取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が相談や面会に来られたときは、しかりと話を伺うようにしています。 入居されて間もない間、個人差はありますが、こまめにお客様の状況報告を行ないます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具無償貸与・ご家族の支援等も含めまずお客様・ご家族共に不安とならないような支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を忘れないように自分自身に自信をもつていただけるような支援を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族共に優しい気持ちで接する事が出来るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域柄まめになじみの人に出会うことは困難ですが、会話に出てきたとき等、しっかりと話を聞くように工夫しています。	近隣の入居者は少ないが、地元のスタッフが地域性のある共通の話題を会話に取り入れている。家族に協力を求め、なじみの場所へ出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士、気が合う合わないがあります。関係が上手くいくように、会話の中に入ったり座る位置を工夫したり、入浴の順番を工夫したり、スタッフで共有し取り組んでいます。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったり、他の施設へ転居したりと色んなパターンがあります。 今のところ該当事例がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今のところ、ご本人ではなく、ご家族の希望意向が多く反映されています。	日常のケアの中で入居者の声を耳にしているが、意向の把握、本人本位のケアについての職員間の認識が十分でない面もみられる。	入居者の声に耳を傾け、本人の思いを知り、知り得た情報は記録共有し、その人らしく暮らせるよう支援する取り組みを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り情報は収集していますが、まだ内容が完璧には至っていません。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り情報は収集していますが、まだ内容が完璧には至っていません。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は作成していますが、今のところホームになじんでもらうことから、始めています。殆どの計画が、居室に閉じこもること無く過ごしていただく事となっています。	介護計画については、職員意見も参考にしながら、計画担当者が、家族の意見をできるだけ取り入れるようにして作成しているが、個別の具体的な計画内容はあまりみられない。	関係者で話し合い、本人本位に、生き生きと生活できるような、その人らしい介護計画を作成することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや工夫の提案はありますが、今のところ計画の見直しまで至っていません		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医・提携歯科医の往診・ご家族訪問看護・ヘルパー自費サービス福祉用具無償貸与等の提案を行なっています。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の社会福祉協議会とタイアップし、地域のボランティア・移動販売・学校との交流を行なっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科については月1回定期的と必要時に往診・歯科は必要時に往診してくれています。	希望するかかりつけ医の受診を家族が行っている。特に希望がない場合は、協力医をかかりつけ医として往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用しています。訪問看護記録にてお客様の状態の共有を行い、適切なアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室とこまめに情報交換を行なっています。 入・退院時には連携室を通じて、主治医病棟の看護師と情報交換を行ないます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで静かに息を引き取りたい。とご希望されていた方が、4月に亡くなりました。ご本人の意向は確認できる状況ではありませんでしたが、ご家族・主治医・看護師の協力で、ご家族の希望通りの終末を迎えることが出来ました。十分に説明をしながら、取り組みました。	終末期の医療については事業所では対応困難な部分も多く、家族と十分話し合うようになっている。医療ニーズの少ないケースについては関係者と連携して支援し、今までに1名のホームでの看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	殆どの職員が、AEDを含めた救急救命訓練を受けていますが、未受講が1名います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行なっています。 まず避難できる場所を確保(社会福祉協議会) 非常食、お客様・職員の3日分の備蓄。 着替え、診療情報、緊急連表を入れた非常持ち出し袋を準備しています。	災害について、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。今後は地域・関係施設と協力して対応していけるように、運営推進会議で話し合ったり、マニュアル作成を検討している。	

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	忙しい時間帯の声かけ等、時々間違った対応がありますが、その都度直接指導するようにしています。	日々のケアのなかで職員の間違った対応があれば管理者がそのつど注意して教育しているが、排泄の声かけなど、羞恥心やプライバシーへの配慮に欠ける場面もみられた。	人格の尊重やプライバシーについて職員間で話し合い、認識を深めることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる状況でない人が多く、希望を聞くのが困難な状況ではありますが、表情などで察知できるように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間・食事時間などこちらの都合になっていることが多々あります。朝食だけは、お客様の起きるペースでお出ししています。昼寝等お客様がくつろぎたい時は、自由に居室に戻っていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットの利用で、カット・カラー・パーマを楽しんでいただいています。男性は近隣の理髪店に行きます。朝は日常着に着替えます。外出時は上着帽子等、可能な限り自分で選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じ献立でも、咀嚼状況により、キザミ・ミキサートミの支援をします。見た目と柔らかさ食べやすさに気を付け調理・盛り付けを行ないます。嗜好による工夫も行ないます。調理自体に関することは困難ですが、下準備・食器洗い等、気が向いた時に手伝っていただきます。	家族の希望で、スタッフが調理・配膳を行い、入居者は食後、テーブルを拭いたり軽度な作業を手伝っている。職員は入居者と食事を共にしていない。	食を通して、入居者の機能の維持や意欲を引き出せるように関わり、職員と一緒に食事を楽しむことをケアの一環として取り組むことが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士さんは居ませんが、副食の品数を多くするように心がけています。介護記録にて一日の水分摂取量の把握を行い、出来るだけ摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お客様の能力に応じた口腔ケアを行なっています。		

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを利用しているお客様にも、排泄のパターンによりトイレ介助を行い、出来るだけトイレにて排泄をしていただけるように支援を行なっています。	排泄パターンを個々に検討して、その時々サインに注意しながら、オムツから排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヤクルトを飲用してもらっています。他にも水分を多くとってもらう、必要に応じて通じの良くなる食物をとってもらうの工夫はするのですが、便秘症のお客様が多く、排便のチェックを行ない、主治医との連携で整腸剤通じ薬も服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客さま個々の希望通りには困難な状況となっています。週2回のペースで、昼間に入浴をしていただいています。	1日3人程度の入浴で、ゆったり入れるように支援している。入浴を拒否する場合でも、さりげなく誘導して1人当たり週に2回は入浴できるようにチェック表を確認しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、口腔ケアが完了したら一応パジャマに着替えていただきますが、眠る時間は自由としています。ねむくならない方についてはリビングで、スタッフと会話をしたりして過ごしていただきます。朝起きる時間も自由にしていきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携にて理解できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	殆どのお客様が入居してから1年経過し、お客様同士、自分の役割を認識しつつあります。歌・ゲーム・イベント・日常の家事等で得意分野を発揮していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの余裕があるときのみ、散歩に出かけます。ご家族がドライブに連れて行ってくれるお客様もいらっしゃいます。ジャンボタクシーでお花見に出かけましたが全員での参加は困難な状況です。	法人の方針で職員が運転する車での外出はできず、外出は家族の協力を得たり、タクシーを自費で利用している。スーパーマーケットも周辺に歩いて出かけることも、常時はできていない。	法人の方針もあり、車で出かける外出支援には制約が見られるが、地域性も考慮し、更なる検討を期待したい。

【事業所名】ニチイケアセンター龍神 ユニット名：ふらわあ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所持すると紛失の可能性がある方ばかりです。お小遣いとして現金で預かり、ホームにて管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望があれば支援しますが、今のところご家族より電話がかかってきたり誕生日や母の日等に贈り物が届いたりはします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ています。	共有空間は落ち着いた雰囲気、入居者のよく知る風景の写真が飾られ、ウッドデッキに出れば周辺の景色や庭を眺めて外気を感じることができる。入居者は食堂の決まった椅子に座っている時間が多いが、畳のスペースも用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座席の配置の工夫を行ったり、自由に居室に戻れるように常に状況の観察を行なっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについては、ご家族やご本人に任せています。中には色んなものを置くと落ち着かず、殺風景な状況となっている方も居ますが、お任せしています。	居室には家族の協力で手作りの表札がかけられ、なじみの家具が個々の思い通りに配置されており、くつろげる雰囲気を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカ、リビングには随所に手すり・段差なし。トイレの位置を解かりやすいように工夫洗面所は車椅子でもOKと色んな工夫があります。エレベータの設置も出来ています。		